

－ プログラム －

1. 「ワークショップ」とは？

- ・参加は、まちに関わるすべての人の権利と義務であり、より良いまちづくりのための不可欠なプロセスです。
- ・ワークショップとは、共通の課題を設定してこれを解決するために、参加者がともに討議したり、現場を見たりするなどの協働作業を通じて、お互いの考え方や立場の違いを学び、協力し合いながらまちづくりの提案などをまとめる手法です。
- ・ワークショップは、参加者全員がそれぞれの考え（複数）や意見（これも複数）を出し合って、それを総合して、結果として全員的一致した結論（これは単数）を作り出すことを目指します。ワークショップの前と後とで、参加者全員が何らかのかたちで「変わる」ことができたなら、ワークショップは成功です。

2. グループ分けを行った後、参加者同士で自己紹介を行います。

「今日の学習会にこんなことを期待しています」

3. 各グループで司会者 2 名（1 名は代理）、記録係 1 名を選びます。

どんな選び方でも結構です。残った方には「発表」をお願いする場合があります。

4. カードを使った情報集約を行います。

「家庭ゴミの問題」について、現状、どんな問題があるのかみんなで考えてみましょう！

- ・各グループに事務局職員が入りますので、ご不明な点はお気軽にお声掛けください。

ワークショップの注意点

- その 1 発言は簡潔明瞭に、手短に。：全員に話す機会を提供しなくてはいけないからです。
- その 2 人の意見は最後まで聴く。（ただし、制限時間を超過している場合は、注意を促します）
- その 3 人の意見を否定しない。：自分と違う考えをするにはその理由があります。
- その 4 人の意見を認めたとうえで自分の意見を言うこと。
- その 5 人格攻撃をしない、挑発はしない。：当然ですね。
- その 6 事実に基づいた発言をし、自信をもって発言すること。
- その 7 誰かが発言しているときには、その意見を聴いているということを態度で示しましょう。
- その 8 参加するということは、何が何でも発言するということでもありません。今はまだ考えがまとまらないという場合は、それを表明すればいいのです。
- その 9 全員が納得できるところがどこかを考えてまとめましょう。場合によっては各論を併記したまとめでもいいです。「ひとつにまとめる努力をしたけれど、まとまらなかったということまでは確認できました」というのも、立派なまとめです。全員が一致したわけではないということまでは、全員が一致して認めているのですから。

■カードを使った情報集約法（付箋の使い方）

今後、市民の皆さんが市政に参画（まちづくり基本条例の検討など）し、市民の皆さんと行政が議論を行っていく際に、全員の意見を効率的に反映していくため、ワークショップを行うことが多くなると考えられます。そこで今回は、多様な情報（意見やアイデアなど）を効果的に集約し、まとめるカード（ポストイット）を使用した情報集約についてご説明いたします。

【1】意見は1枚につき、ひとつ。
大きな字で簡潔に記入します。

例) ボランティアに参加する人が少ない

名前

【2】付箋の向きは裏面の「のり」が上になるように。

裏面のり

上

おもて

下

【3】記入した人は、カードを読み上げながら模造紙に貼っていきます。次に意味の近いカード同士をグループ化し、タイトルを付けます。グループを輪で囲みます。（グループに関係線を引いてもOKです）

『家庭ごみの問題』について ○班

例) 収集

カード

カード

カード

カード

タイトル

カード

カード

カード